

参加者を増やそう
嘗ては申込者が定員オーバーして断られることもあった永い伝統のイベントも、近年の参加者減少に悩んでいる。前日イベントの話に飛びついたスキーオリエンテーリング。来年も模索は続く

磐梯高原スキーO大会 2004
2004年1月31日(土)
福島県磐梯高原

クロカン大会とタイアップ!

磐梯高原スキーO大会、2時間トライアルへ参加された皆様、大変お疲れ様でした。2日間のスキーイベント、楽しんで頂けたでしょうか?

今回のスキーO大会は、市民クロスカントリースキー大会『2時間トライアル』のプレイベントとして実施し、参加者数は、当日参加も含め、52組 55名でした。

磐梯高原でのスキーO大会は、1997年3月に有志で行われた練習会を機に、研究会会長が休暇村支配人とスキーO大会の開催を話し合い、その秋に高島和宏・恵美子夫妻が湿地の泥濘に足を取られながら地図調査した時から始まります。早速、1998年のシーズンから大会として開催され、テレビも東西に広げながら今年で7回目となりました。その間には初心者講習会を併設して参加者の増加を試みてきました。

しかし、ここ数年、日本で開催されるスキーO大会は、参加者の固定化傾向に加え、参加者数も40名前後と頭打ちで、その競技特性から、歩くスキーやスノーシューを使って、ネイチャースキーを楽しむ人たちのバリエーションの中に、スキーOを加えて貰ったり、MTBやトライアスロン、アドベンチャーレースをやっている人たちに、冬場のトレーニングや、読図の一環として取組んでもらったり、そして純クロカンの選手にスキーOに取組んでもらうきっかけにしてもらいたいとか等々、思っているものの、極端に認知度の低いスキーO大会だけでは、オリエンティア以外の参加者を増やしていくのは、難しい課題です。



まず楽しさを知ってほしい

磐梯高原は、首都圏からのアクセスがよく、フラットで常設コースも整備されており、スキーOに最適のフィールドです。レースに向けて練習に励む小中学生やクロスカントリースキーヤーだけでなく、休暇村の観光地図を片手に、歩くスキーやスノーシューでネイチャースキーを楽しむ家族連れやグループも非常に多く、この人たちにもスキーOを楽しんで貰えないだろうかと思いつつ、我々自身も腕試しと称し、『2時間トライアル』には、8年前前アンダッシュ・トルーゲンのコーチ時代から参加しておりました。

毎年大会を開催するスキーOに対する理解も少しずつ得られていく中、『一緒にやったら、お互いメリットがあるんじゃない!』という一言をきっかけに、同時開催することになりました。

参加者が減少傾向にあった『2時間トライアル』側も、前日イベントとしてスキーO大会が実施されることで、イベント性が高まり、相乗効果が得られるんじゃないかというお互いの狙いが一致したのでした。

かくして、市民クロスカントリースキー大会の『2時間トライアル』のプレイベントとして、スキーO大会を前日の土曜日に開催することになりました。

まずは、毎年『2時間トライアル』を楽しみにしているクロスカントリースキー愛好者350名程をターゲットにスキーO参加者を増やせないか、地元の子供たちにスキーOを体験してもらえないか、そして、磐梯高原での雪遊びイベントの中に、もっとスキーOを根付かせるきっかけに出来ないかなあというのが、こちらの思いでした。

こういった背景から、今年の磐梯高原スキー大会の実施は、これまでのナイトスキーを含めた2日間のイベントから、土曜日の1日だけの開催で、コースも初心者向け中心に、経験者向けには、ショートディスタンス相当のみを用意することにしました。

結果として、参加者数は、冒頭のようになり当日参加も含め、52組55名でした。これは、決して大きな数ではなく、当初の目標(80名)にも届きませんでした。非オリエンティアのスキー初体験者が24組27名だったことは、『2時間トライアル』の前日に開催した効果であり、小中学生の参加が少なかったのは、これからの課題ですが、まずまずの成果ではなかったかと思えます。逆に、2時間トライアルに参加したスキー関係者は30名程で、この内12名が、初めての参加でした。少しは、相乗効果が出たのではないのでしょうか。

来年こそスキー体験!

来年以降の同時開催についても、より連携を強めて、更に大きな相乗効果をだそうと、お互いの思惑は一致していますので、継続していく予定です。期日は2時間トライアルが2月第1週と決まっていますので、来年は2月5日(土)になります。ただ、課題も山積みです。主催者も工夫していますがご要望等がありましたらどしどしお寄せください。



酒井佳子・男どもを制する

さて、レースはというと、経験者コース(ショートディスタンス相当)の男女総合成績では、なんと、日本人男

子は、今年の世界選手権代表メンバー2人を含めて、すべて酒井佳子さんに敗れてしまいました。

チャレンジコースは、3kmの常設コースを基調としたシンプルなおコースで、様々な分野のスキー愛好者とスキーがあまり得意でないオリエンティアがエントリーしてくれました。男子優勝は、『2時間トライアル』に備えて、ほとんど毎週磐梯高原で練習していた山が専門の山中さん、2位はトリアスリートの細谷さん(お姉さんは、シドニー五輪のトリアスロン日本代表選手です)、3位はオリエンティアの当日参加で飛び込んできた笛木(新潟)さんでした。やはり、常設コース基調だと、スキー技術に優るアスリートの方が優位ようです。

その他、初心者コースには、カップルや親子で参加された方もいて、スキーを楽しんでいただけただよう。地元、喜多方市からの参加者はスキーにとても興味をもたれ、真室川大会にも是非申し込みたいと話していました。

我々は、もっともっと一般のスキー愛好者やクロカンの選手へPRしていくことが重要ですが、やはり、こういったイベントとのタイアップは、有効のような気がします。そして、一人でも多くの人に、スキーを楽しんで貰いたいと思います。

今回参加出来なかった皆様、来年こそは、是非、磐梯高原でのスキーイベント(雪遊び)にお越し下さい。

大暴れ! オリエンティア

翌日の『2時間トライアル』には、運営者も含め30名程のオリエンティアが参加し、酒井佳子(札幌農学校)が、女子総合トップ、他にも年代別表彰で武石雄市(日本スキー研究会)が優勝、元木友子(Team白樺)が2位、

Gustavsson(春日部 OLC)が3位、大里真理子(京葉 OLC)が3位で表彰されるなど、スキー勢の健闘も光り、酒井さんは、スピーチで更にスキーをアピールしてくれました。

また、最後のじゃんけん大会では、高橋美和(みずざる)がFINAIRのヘルシンキ往復航空券をゲットし、その日程をスキー世界選手権に合わせてもらうなど、最後の最後までとても盛り上がった2日間でした。

この航空券は数年前からフィンランド航空が、翌年2月下旬フィンランドの60kmスキーレースに参加することを条件に景品として提供しているものを過去にも確か二本松 OLC の永井栄寿が獲得しているので大会参加者数から見てオリエンティアは獲得率が高いです。国体開催記念大会にも提供が約束されています。さて、今度は誰が獲得するのでしょうか?

成績

経験者 M / 経験者 W

- 1 Gustavsson 春日部 0:29:01
- 2 酒井佳子 札幌農 0:32:31
- 3 元木 悟 Team 白樺 0:32:40

チャレンジ M

- 1 山中勝秀 0:21:10
- 2 細谷岳男 0:25:35
- 3 笛木 勉 0:31:27

チャレンジ W

- 1 鈴木 愛 0:44:07
- 2 小林正子 0:50:45
- 3 酒井か代子 0:56:40

初心者一般 M

- 1 新井 徹 0:09:04
- 2 渡辺達也 0:12:54
- 3 佐藤和雄 0:18:55

初心者一般 W

- 1 大貫はるみ 0:30:28

初心者大学生以下 W

- 1 猪鼻和子 0:31:37

中学生 M

- 1 町井ミズキ 0:23:08

小学生 M

- 1 渡辺 幸 0:14:24

(内山孝博・武石雄市)

